

令和5年度

総 会 資 料

名張市民産学金官連携推進協議会

# 議 案

第1号議案 令和4年度 事業報告について

第2号議案 令和4年度 収支報告について

第3号議案 役員の改選について

第4号議案 令和5年度 事業計画について

第5号議案 令和5年度 収支予算について

## 令和4年度 名張市民産学金官連携推進協議会 事業報告

近畿大学工業高等専門学校の高い専門知識、技術シーズを活かした地域産業の活性化及び産業の創出、人材育成等の総合的支援を目的とし、農業、工業及び商業等の産業間での連携を強化することで相乗効果を発揮できるよう事業に取り組んだ。

新型コロナウイルス感染拡大以降、3年ぶりに開催した事業も多く、市民公開講座の開催をはじめ、各界が抱える課題解決やニーズ実現を目的とした研究・調査等による実践的な事業を継続する中で、民産学金官の連携をより強固なものとし、地域資源の活用や地域産業の活性化を図ることができた。

### 1. 市民公開講座の開催

近畿大学高専大教室において、令和4年12月17日に市民公開講座を開催した。名張市の北川市長と齊藤校長による挨拶の後、藤森工業株式会社 専務執行役員 ウェルネス事業本部長の下田拓氏が「先端医療の発展・普及を加速させる化学×工学～名張の100年企業、ZACROSの挑戦～」について、近畿大学高専准教授の三崎雅裕氏が「VOCフリー塗布成膜技術による有機半導体フィルムの作製と応用」について講演を行った。参加者は、市民、企業、市職員、近畿大学高専教職員および学生など合計75名であった。

### 2. 産業支援（技術紹介）

近畿大学高専と地元企業、関係機関が連携することを目的に、令和4年10月9日に名張市上本町のサンロードで行われた「名張街道市」において、機械システムコースの教員と学生によるKV-Mottoとエコランカーの展示を行い、来場者へ技術紹介を行った。また、令和4年12月17日には、近畿大学高専会館において「令和4年度近畿大学工業高専専任教員ポスターセッション」を開催し、教員が持つ専門的なスキルの活用について公開し、技術相談があった。

### 3. 学生と取り組む魅力向上・発信事業

近畿大学高専が実施する事業の推進にあたっては、会員団体が参加協力等をはじめとした以下の支援を行った。

#### (1) 学校の魅力発信と広報力の強化（学生確保に向けた取組）

- ・令和4年10月9日に、名張市上本町のサンロードで開催された「名張街道市」において、子どもが楽しめる科学教室を開催し、近畿大学高専の教員と学生がスライムづくりを行い150名が参加した。また、令和4年11月3日に開催された「つつじが丘子どもフェスタ」では約500名の参加があり、近畿大学高専の制御情報コースと共通教育科の教員が小学生に向けてVR体験を実施した。

## 第1号議案

### (2) 地域を志向したグローバル人材の育成と確保（学生の県内企業等への就職等に向けた取組）

- ・近畿大学高専で「英語技能向上プログラム」(E i g o C a f é) を実施した。第1回は、令和4年10月15日に開催し、名張市ALTの2名を迎え、同校の学生を中心に46名が参加した。第2回目は、令和5年3月1日に名張市ALTの2名を迎え、近畿大学高専の学生と教職員30名が参加した。
- ・近畿大学高専の「ものづくり工房」で製作したKV-Mo t oやエコランカー、電気電子コースの研究室で製作したデジタル地球儀ダジック・アースの展示に加え、技術教育部による小中学生ロボットコンテスト2022へ向けたロボット製作講習会をオープンキャンパスや高専名張祭等で行った。このことにより、来場者にもものづくりに関心を持ってもらうとともに、同校への入学や将来における市内就職について考えてもらう一助となった。
- ・若者の工業分野を中心とした地元企業への就職促進に向けて、近畿大学高専機械システムコースの4年生48名が、令和4年11月25日に株式会社ニッタと株式会社東研サーモテックの工場見学を行った。また、制御情報コースの学生47名が、令和5年1月13日に株式会社L I X I L名張工場の工場見学を実施した。さらに、都市環境コース（建築系）の4年生27名が令和4年10月21日に、セルスター工業株式会社三重第2物流倉庫新築工事現場の見学を行った。

### (3) 地域貢献（地域課題の解決に向けた取組）

名張市の地域住民と地元企業に加え、近畿大学高専と名張市の民産学金官が連携し、現在名張市が抱えている旧町をはじめとする空き家の増加やまちの空洞化に対する地域課題の解決に向けた以下の取組を行った。

- ・令和4年5月31日に都市環境コース（建築系）の5年生が、元町にあるテレワーク施設F L A T B A S Eで地域住民や市職員に向けて旧町活性化についてのプレゼンを行い、毎日新聞、中日新聞、広報なばりで取り上げられた。
- ・名張藤堂家邸跡では、旧町の活性化をめざして都市環境コース（建築系）の学生が提案する模型やデッサンなどの作品を展示した。第1弾は、令和4年8月19日～21日に開催し、約100名が訪れた。第2弾は、令和5年2月7日～12日に開催した。初日には学生の作品発表を行い、名張市長とこれからの旧町の在り方について議論を交わしたこともあり、約140名が来場した。なお、展示した優秀作品については、協議会費よりポストカードとクリアファイルの製作を地元業者へ依頼し、広く配布を行ったことで旧町についての魅力発信を行うと同時に、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、中日新聞、広報なばりで取り上げられた。
- ・令和5年3月4日に名張市教育委員会主催のトークイベント「暮らしのなかの文化財価値の創造と継承」を、名張市総合福祉センターふれあいで開催した。奈良大学准教授の大河内智之氏を招聘し、近畿大学高専准教授の田中和幸氏と名張市長の北川裕之氏が、名張市旧町の現状や今後の将来像について対談を行った。参加者は約60名で、講演会については、毎日新聞、広報なばりで取り上げられた。

## 第1号議案

- ・名張市公共交通網の再編に関する取組として、近畿大学高専教授の中平恭之氏が、コミュニティバス利用者が減少傾向にある地域を対象とした公共交通需要や問題点を把握し、改善に向けた調査・分析を行った。

### 4. 地域特産品の認定制度の創設

令和3年度に地域特産品の認定制度創設について更なる機運醸成を図るため、名張商工会議所HPに市内長寿企業を紹介する専用サイトを立ち上げ、地域情報発信サイトと連携してきた。本年度も同サイトでの発信を継続し、市内外への周知に努めることで、長寿企業が持つ商品、サービス、ノウハウ、人にスポットをあて、名張ブランドとしてブランド価値を高める一助とした。

### 5. 若者移住定住チャレンジ支援事業

民産学金官連携推進協議会の支援事業として、当協議会の構成メンバーが審査員を務め、各分野の専門的視点を取り入れた審査を行った。本年度は、八百屋・弁当総菜屋・移動式屋台を企画提案した事業を採択した。採択者は、地元農家とのコラボレーションによる加工品の販売や、料理の提供、イベント出店やSNSを通じた積極的な情報発信など、名張産野菜の販路拡大と周知に努めるとともに、買い物困難者への移動販売等も行った。

### 6. ワインづくりプロジェクトの推進

地域資源である“ぶどう”を活かしたワインづくりを新たな産業として育成し、民産学金官連携によるネットワークを広げることで、地域ブランドの確立、販路拡大等に繋げるよう検討を重ねた。

### 7. 経営発達支援計画の推進

名張商工会議所が策定し、国の認定を受けた「経営発達支援計画」の計画的な推進を図るため、小規模事業者による事業計画の作成及びその着実な実施を支援し、民産学金官連携のもとに地域経済の活性化に取り組んだ。

### 8. 高等教育機関卒業生の市内事業所への就業機会の提供

- ・市内のものづくり関連の事業所と連携して、近畿大学高専4年生がインターンシップに参加し、市内事業所への就業を促した。なお、令和4年度卒業生のうち、コクヨ株式会社三重工場へ2人、株式会社LIXIL名張工場へ1人が就職した。「名張市OB座談会」については、市内企業9社が参加する「令和4年度近畿大学高専『学内業界研究セミナー』」において学生が十分情報収集を図れたことから、本年度は未実施とした。
- ・令和4年8月8日、商工会議所主催により、知識の習得と職業意識の形成、自らの進路に対する関心の向上を目的とした「第1回 地元高校生職場見学会」を開催した。名張高等学校2年生21名が、高校卒業生の採用を予定している市内企業9社を見学した。

## 第1号議案

- ・名張市と名張商工会議所等が連携して令和5年3月10日に開催した名張市・伊賀市合同企業説明会では、3年ぶりの対面開催となり、求人企業60社、求職者のべ150名の参加があった。求人側として八幡工業団地内の企業が参加し、本協議会を通じた周知・協力依頼による連携が図れた。

### 9. 日本銀行経済講演会

民産学金官連携による地域活性化への課題解決を図ることを目的に、令和4年10月21日、名張商工会議所主催の講演会を開催した。日本銀行大阪支店の村國聡副支店長を講師に迎え、日本、関西の金融・経済動向や地域の課題について講演いただいた。3年ぶりの開催となる中、73名の方が熱心に受講された。

### 10. 講習会等

地域で活躍する人材を育成するため、近畿大学高専が次のとおり資格取得の機会を提供した。

- ・第2種電気工事士実技試験対策講習会を2回開催し、令和4年7月7日～23日（13日間）に20名、令和4年12月9日～24日（14日間）に23名が参加した。
- ・地域貢献として、近畿大学高専制御情報コースの教員と学生が、小中学校向けプログラミング授業を行った。令和4年6月25日に名張市立つつじが丘小学校の6年生4クラスを対象に、Scratchによるプログラミングの授業を実施した。また、令和4年9月17日には名張市立南中学校の1年生3クラスを対象に、micro:bitを使った早押しゲームとIchigoJam コンピュータ（BASIC言語）を使ったドローン操縦プログラミングの授業を実施した。
- ・近畿大学高専機械システムコースの教員が、自由研削砥石取替特別教育の講習を令和4年9月3日に実施し、70名が参加した。

第2号議案

令和4年度 名張市民産学金官連携推進協議会 収支決算書  
(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

収入の部

(単位:円)

費目	予算額 (A)	決算額 (B)	比較増減 (B-A)	備考
負担金	65,000	65,000	0	名張商工会議所 10,000 八幡工業団地管理組合 5,000 伊賀ふるさと農業協同組合 5,000 近畿大学工業高等専門学校 20,000 名張市金融団 5,000 名張市 20,000
雑収入	4	4,603	4,599	預金利息、ポストカード販売
繰越金	472,805	472,805	0	令和3年度繰越金
合計	537,809	542,408	4,599	

支出の部

(単位:円)

費目	予算額 (A)	決算額 (B)	比較増減 (B-A)	備考
事業費	470,000	307,626	△ 162,374	協議会事業推進費 〔 空き家・旧町活性化 グローバル人材育成
需用費	35,000	3,480	△ 31,520	
消耗品費	20,000	0	△ 20,000	
食糧費	15,000	3,480	△ 11,520	お茶代
役務費	12,000	1,260	△ 10,740	
通信運搬費	12,000	1,260	△ 10,740	切手代
予備費	20,809	0	△ 20,809	
合計	537,809	312,366	△ 225,443	

収入合計542,408円から支出合計312,366円を差し引いた230,042円を次年度へ繰り越します。

【監査報告】

名張市民産学金官連携推進協議会規約第6条の規定により、  
収入支出決算の監査の結果、正確であり適正に執行されていることを認めます。

令和5年6月5日

監事

大 坂 秀 雄 

第3号議案

名張市民産学金官連携推進協議会 役員改選

[会員名簿]

	団 体 名	代 表 者 氏 名		役 職
民	地域づくり代表者会議	会 長	時 枝 民 生	監 事
産	名張商工会議所	会 頭	亀 井 喜久雄	副会長
	名張市八幡工業団地管理組合	組合長	堂河内 武	
	伊賀ふるさと農業協同組合	代表理事 組合長	北 川 俊 一	
学	近畿大学工業高等専門学校	校 長	齊 藤 公 博	副会長
金	名張市金融団	代表者	南 部 浩 史	
官	三重県	雇用経済部長	小見山 幸 弘	
	名張市	市 長	北 川 裕 之	会 長

(敬称略)

令和5年度 名張市民産学金官連携推進協議会 事業計画

近畿大学工業高等専門学校の高い専門知識、技術シーズを活かした地域産業の活性化及び産業の創出、人材育成等の総合的支援を目的とし、農業、工業及び商業等の産業間での連携を強化することで相乗効果を発揮できるよう事業に取り組む。

各界が抱える課題解決やニーズ実現を目的とした研究・調査等による実践的な事業を継続する中で、民産学金官の連携をより強固なものとし、地域資源の活用や地域産業の活性化を図る。

1. 市民公開講座の開催

近畿大学高専において、市民公開講座を実施し、民産学金官からの講師派遣や聴講による課題意識の共有化を図る。

2. 産業支援（技術紹介）

近畿大学高専と地元企業、関係機関が連携することで、技術相談や共同研究の実施、研究機器や実験実習場の提供、また講演会・講習会への講師派遣等を検討する。さらに「車のメンテナンスセミナー」や「名張街道市」に積極的に参加し、技術紹介に努める。

3. 学生と取り組む魅力向上・発信事業

近畿大学高専が実施する事業の推進にあたっては、会員団体が参加協力等をはじめとした以下の支援を行う。

(1) 学校の魅力発信と広報力の強化（学生確保に向けた取組）

- ・市内でイベントが開催される場合には積極的に参加し、SDGsで注目されるKV-Motoやエコランカーなど環境に配慮した乗り物の展示や、スライムづくり等子どもが楽しめる科学教室の開催、工夫を凝らしたロボットの紹介等に努める。それらを通じて、市内唯一の高等教育機関として、優れた技術力を培える学校の魅力向上に努める。

(2) 地域を志向したグローバル人材の育成と確保（学生の県内企業等への就職等に向けた取組）

- ・近畿大学高専が「英語技能向上プログラム」(Eigo Café)を実施するにあたり、ALT教員を派遣し、教育のグローバル化支援を行う。
- ・近畿大学高専が学内で立ち上げた「ものづくり工房」において製作したKV-Moto、エコランカー、機械等を各種イベント等でPRすることにより、学生の熱意や技術力に対する関心をより高め、地元企業へのインターンシップや就職に繋げる。
- ・工業分野を中心とした地元企業への人材確保に向けて、近畿大学高専が名張市と連携し、機械・電気・情報の各コースにおける企業訪問等を実施する。

## 第4号議案

### (3) 地域貢献（地域課題の解決に向けた取組）

近畿大学高専、名張市や地元企業を中心に民産学金官が連携し、現在名張市が抱えている地域課題の解決に向けた取組を行う。

- ・旧町が抱える空き家の増加や、まちの空洞化に対する課題解決に向けた取組を行う。
- ・名張市公共交通網の再編に関する取組として、コミュニティバス利用者が減少傾向にある地域を対象とした公共交通需要や問題点を把握し、改善に向けた調査・分析を継続する。

### 4. 地域特産品の認定制度の創設

地域特産品の認定制度創設の前段階として、関係者間の繋がりを創出し、認定制度創設への機運の醸成を図る。

### 5. 若者移住定住チャレンジ支援事業

民産学金官連携推進協議会の支援事業として、当協議会の構成メンバーが審査員を務め、各々の専門的視点を取り入れた審査を行う。

### 6. ワインづくりプロジェクトの推進

地域資源である“ぶどう”を活かしたワインづくりを新たな産業として育成し、民産学金官連携によるネットワークを広げることで、地域ブランドの確立、販路拡大等に繋げる。

### 7. 経営発達支援計画の推進

名張商工会議所が策定し、国の認定を受けた「経営発達支援計画」の計画的な推進を図るため、「持続化補助金」の申請支援等をはじめ、小規模事業者による事業計画の作成及びその着実な実施を支援し、民産学金官連携のもとに地域経済の活性化に取り組む。

### 8. 高等学校・高等教育機関卒業生の市内事業所への就業機会の提供

市内のものづくり関連の事業所と連携して、効果的なインターンシップを実施する。また、近畿大学高専で企業説明会を行い、卒業生の市内事業所への就業を促す。さらには、商工会議所主催で前年度に初めて開催した地元高校生職場見学会を本年度も実施するとともに、名張市・名張商工会議所等の共催による名張市・伊賀市合同企業説明会も開催する。

### 9. 経済講演会

名張商工会議所主催のもと、経済、産業界から講師を招いた講演会を開催し、昨今の金融・経済動向や地域の課題についての講演を通して、民産学金官連携による地域活性化への課題解決を図る。

### 10. 講習会等

地域で活躍する人材を育成するため、近畿大学高専が次のとおり資格取得などの機会を提供する。

#### 第4号議案

- ・第2種電気工事士実技試験対策講習会（2回開催予定）
- ・小中学校向けプログラミング教室  
名張市立南中学校・桔梗が丘中学校・つつじが丘小学校での地域貢献事業
- ・アーク溶接等特別教育（8月24日～26日実施予定）

第5号議案

令和5年度 名張市民産学金官連携推進協議会 収支予算書  
(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

収入の部

(単位:円)

費目	本年度予算額 (A)	前年度予算額 (B)	比較増減 (B-A)	備考
負担金	65,000	65,000	0	名張商工会議所 10,000 八幡工業団地管理組合 5,000 伊賀ふるさと農業協同組合 5,000 近畿大学工業高等専門学校 20,000 名張市金融団 5,000 名張市 20,000
雑収入	2	4	△ 2	預金利息
繰越金	230,042	472,805	△ 242,763	令和4年度繰越金
合計	295,044	537,809	242,765	

支出の部

(単位:円)

費目	本年度予算額 (A)	前年度予算額 (B)	比較増減 (B-A)	備考
事業費	250,000	470,000	△ 220,000	協議会事業推進費 〔 空き家・旧町活性化 グローバル人材育成
需用費	20,000	35,000	△ 15,000	
消耗品費	10,000	20,000	△ 10,000	封筒代 他
食糧費	10,000	15,000	△ 5,000	会議賄お茶代 他
役務費	15,000	12,000	3,000	
通信運搬費	10,000	12,000	△ 2,000	切手代 他
手数料	5,000	—	5,000	振込手数料
予備費	10,044	20,809	△ 10,765	
合計	295,044	537,809	△ 242,765	

※費目間の流用を認めることとする。

## 名張市民産学金官連携推進協議会規約

### (名称)

第1条 本組織の名称は、名張市民産学金官連携推進協議会（以下「協議会」という。）とする。

### (目的)

第2条 協議会は、名張市における民産学金官の連携を推進するための事業を実施するとともに、その推進に関する協力体制を確立することにより、地域振興及び産業経済の自律的発展を図ることを目的とする。

### (事業)

第3条 協議会は、前条の目的を達成するため、次の各号の事業を行う。

- (1) 近畿大学工業高等専門学校等が行う民産学金官連携推進事業に対する支援
- (2) 民産学官連携にかかる情報の収集、提供
- (3) 民産学官連携にかかる広域的な啓発、普及活動
- (4) その他、協議会の目的達成に必要な事業

### (会員)

第4条 協議会の会員は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 地域づくり団体等の代表者
- (2) 市内商工団体等の代表者
- (3) 市内企業団体等の代表者
- (4) 市内農業者協同組織の代表者
- (5) 市内金融機関団体等の代表者
- (6) 近畿大学工業高等専門学校の代表者
- (7) 関係行政機関の代表者
- (8) その他会長が必要と認める者

### (役員)

第5条 協議会の役員として、会長1名、副会長2名以内及び監事1名を置く。

- 2 役員は、会員の互選により選出する。
- 3 役員は、任期は、2年とし、再任を妨げない。
- 4 任期の途中において異動等があった場合は、当該者の後任のものが就任するものとする。この場合の任期は、前任者の残任期間とする。

### (役員の仕事)

第6条 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

3 監事は、協議会の業務及び会計を監査する。

(顧問)

第7条 協議会の適切な運営を図るため、協議会に顧問を置くことができる。

- 2 顧問は、協議会の運営について、幅広い識見から高度な助言及び指導を行うものとする。
- 3 顧問は、協議会の決議によって選出する。
- 4 顧問の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(会議)

第8条 協議会は、必要に応じ会長が招集し、会長が議長となる。

- 2 協議会は、第3条に定める事項について協議決定する。

(運営委員会)

第9条 協議会は、その事業の執行を図るため、運営委員会を置く。

- 2 運営委員会は、会員の実務担当者により構成する。
- 3 運営委員会に、委員長1名、副委員長2名を置き、会長が指名する。
- 4 運営委員会は次の事項を協議決定する。
  - (1) 協議会で決定した事項の運営に関すること
  - (2) 協議会に付議すべき事項
  - (3) その他会務の運営に関すること

(会計)

第10条 協議会の運営に要する経費は、負担金及びその他収入をもって充てる。

- 2 協議会の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。  
但し、協議会が設置された年度については、この規約の施行日に始まり、翌年3月31日に終わるものとする。
- 3 会計処理にかかる必要な事項は、別に定める。

(事務局)

第11条 協議会の事務局は、名張市産業部商工経済室に置く。

(賛助会員)

- 第12条 協議会は、協議会の趣旨に賛同し、協議会の事業の円滑な実施に協力しようとする者を賛助会員とすることができる。
- 2 賛助会員について必要な事項は、別に定める。

(その他)

第13条 この規約において定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則  
この規約は、平成23年9月17日から施行する。

附 則  
この規約は、平成24年5月19日から施行する。

附 則  
この規約は、平成26年5月24日から施行する。

附 則  
この規約は、平成28年5月28日から施行する。